

Indeed が「AI の業務利用に関する実態・意識調査【医療職（医師・看護師）編】」を実施**医師の約 4 人に 1 人、看護師の 7.5% が AI の業務利用経験あり。****AI 業務利用への期待感が高く、医師の約 7 割、看護師の 5 割以上が今後の利用意向あり。****AI によって医師は平均 21.9%（11.6 時間/週）、看護師は平均 23.1%（10.3 時間/週）の労働時間削減を希望。****一方で効率化のみならず、診断や検査結果の解析など医療の「質」向上につながる利用意向も高い。**

世界 No.1 求人サイト* 「Indeed（インディード）」の日本法人である Indeed Japan 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：大八木 紘之、<https://jp.indeed.com> 以下 Indeed）は、20 歳～59 歳^{*1}の正社員で医療職（医師・看護師）に従事する男女計 1,000 名（医師：424 名、看護師：576 名）を対象に、「AI の業務利用に関する実態・意識調査」を実施しました。

※1：医師は 24 歳～59 歳、看護師は 20 歳～59 歳を対象に聴取

■ 調査結果 主要ポイント**＜AI の業務利用実態＞**

1. **【AI の業務利用率】** 医師の約 4 人に 1 人（23.7%）、看護師の 7.5% が AI の業務利用経験がある。
2. **【AI 業務利用で実感した変化】** AI の業務利用経験のある医師・看護師ともに、半数以上が AI の業務利用により「大量の医学的なデータや文献を活用できた（医師 1 位：54.1%、看護師 2 位：55.1%）」「業務を効率化できた（医師 2 位：50.8%、看護師 1 位：59.8%）」と実感。

＜AI の業務利用意向＞

3. **【AI の業務利用意向】** 医師の約 7 割（68.9%）、看護師の 5 割以上（54.2%）が AI を業務に利用したいと回答し、期待感の高さがうかがえる。特に AI の業務利用経験のある人の方が利用意向が高く（利用経験あり医師：87.9%、看護師：78.7%）、医療現場でのさらなる AI の広がりには医療従事者が「AI の業務利用を経験すること」が有用と考えられる。
4. **【AI 利用によって削減したい労働時間】** 医師では平均 21.9%（1 週間あたり平均 11.6 時間）、看護師では平均 23.1%（1 週間あたり平均 10.3 時間）の労働時間を AI 利用により削減したいと考えており、AI による業務効率化の意向がうかがえる。
5. **【今後 AI を利用したいと思う業務】** 医師の約 6 割（59.1%）が「診療記録の作成」などの「定型の事務作業」に AI を活用したいと回答しており、業務効率化への意向が強い。一方で、44.2% が「患者の病状の評価と診断」や「検査結果の解析と診断の立案」などの「情報分析・課題解決業務」への利用意向があり、AI を医療の「質」の向上につなげたい意向も見取れる。

看護師も医師と同様の傾向で、AI を利用したい業務として最も多かったのが「定型の事務作業」（「患者の受付業務」や「記録作業」など）で 39.1%、次いで「情報分析・課題解決業務」（「患者の病状のアセスメント」や「ヒューマンエラーの防止」など）で 36.8% となっており、業務効率化と医療の「質」向上の意向がともにあることが示唆された。

■ 調査実施の背景

AI 技術の革新により、職場や業務のあり方が急速に変化してきています。特に ChatGPT などの生成 AI の登場以降、AI 技術を導入する企業や業務で AI を利用する労働者が増加しています。

特に、日本においては様々な業界で人材不足が叫ばれる中、企業にとっては不足する労働力を AI などのテクノロジーで補完していくことも重要になってくるでしょう。一方、労働者においては AI 活用による業務効率化や働き方の改善、業務の質の向上に期待する人もいますと考えられます。

そこで Indeed では、AI が日本の様々な業界や仕事でどのように利用されているのか、労働者は AI の業務活用をどのように捉えているのか等を明らかにするため、「AI の業務利用^{※2}に関する実態・意識調査」を実施しました。

[第 1 弾の「販売職（小売・アパレル）編」（2024 年 8 月発表）](#) に続き、第 2 弾となる今回は、産業別の就業者数^{※3} が国内で 3 番目に多い「医療・福祉」に着目しました。その中でも、2024 年 4 月より医師の時間外・休日労働上限規制が開始されるなど、国を挙げての働き方改革が推進されている医療現場において、主要な業務を担う「医師」と「看護師」を対象に調査をおこないました。

※2：本調査における「AI」は、「生成 AI」と「生成 AI 以外の AI」の両方を含み、それぞれ以下の定義で聴取しています（「AI の利用率」等は、回答者本人が AI であると認識して利用している割合を示しています）。

- ・生成 AI：文字などの入力（プロンプト）に対してテキスト、画像、動画、音声などを生成する AI を指します。
- ・生成 AI 以外の AI：機械学習など大量のデータを用いて結果の予測を行ったり、事前に決められた行動を自動化したりする AI を指します。

※3：総務省統計局「[労働力調査（基本集計）2024 年 7 月分](#)より

■ 調査結果に対する Indeed Hiring Lab エコノミスト 青木 雄介のコメント

医師と看護師の間での AI の業務利用経験率は未だ高くないものの、AI 導入に対する利用意向が高いことが確認され、今後の AI 導入に対する期待の大きさがうかがえます。特に、AI 利用に対する期待は、「定型の事務作業」（例：診療記録の作成やデータ整理）の業務効率化と、「情報分析・課題解決業務」（例：「患者の病状の評価と診断」「検査結果の解析と診断の立案」「ヒューマンエラーの防止」）の質の向上の 2 点に集中しています。このような業務の効率化により、労働時間の削減を期待し、医師は現状よりも平均 21.9%、看護師は現状よりも平均 23.1%の労働時間削減を希望しています。



しかし、AI の技術的観点や信頼性についての医療従事者の認識から、現状の AI に任せられる業務範囲が限られ、医療業務の質向上を目的とした利用はまだ浸透しにくい課題もあるでしょう。それでも「こんなことに AI を利用できたらいいな」という自由回答には、医療業務の質向上への寄与に期待する具体的意見も多く寄せられており、AI 未利用の医療従事者からも同様の期待が示されています。これらの意見は、AI がどのように貢献できるかを示唆しており、今後の AI 導入の方向性や AI に任せられる業務範囲の拡大を検討する上で重要です。

■ 調査結果 詳細

<AI の業務利用実態>

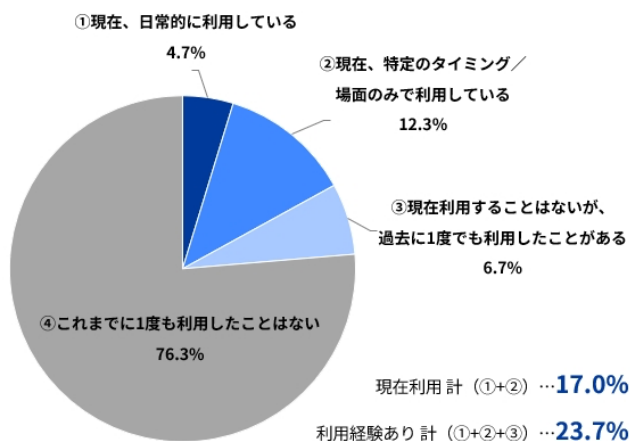
1. 「AI の業務利用率および業務利用経験率」

- 医師の約 4 人に 1 人（23.7%）、看護師の 7.5%が AI の業務利用経験がある。

医師（424 名）のうち、現在 AI を業務に利用している人は 17.0%でした。過去利用も含めると 23.7%で、約 4 人に 1 人が、AI の業務利用経験があることがわかりました。一方、看護師（576 名）のうち現在 AI を業務に利用している人は 5.7%、過去利用も含めると 7.5%でした。

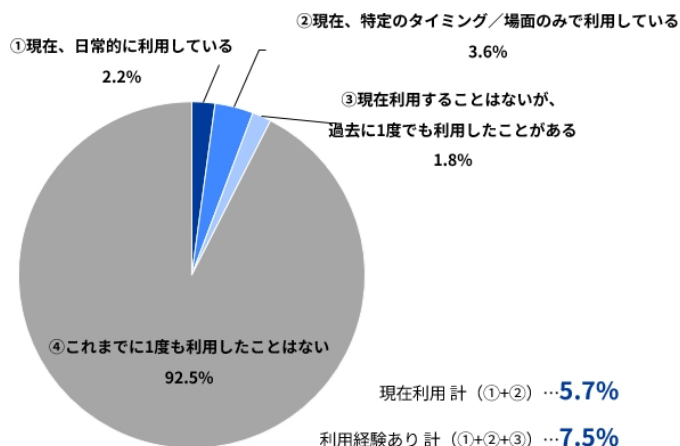
【医師の業務におけるAI全般の利用状況】

医師全体／単一回答／n=424



【看護師の業務におけるAI全般の利用状況】

看護師全体／単一回答／n=576



2. 「AIの業務利用で実感した変化」

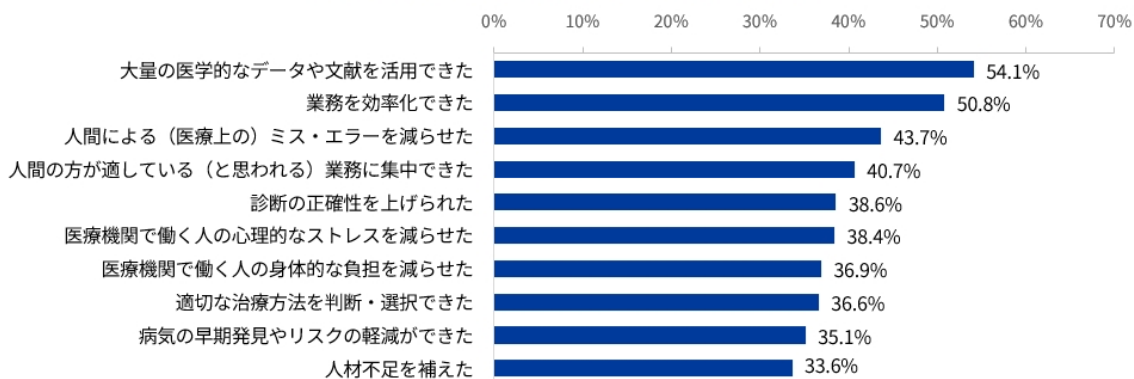
- AIの業務利用経験のある医師・看護師ともに半数以上が「大量の医学的なデータや文献を活用できた（医師 1位：54.1%、看護師 2位：55.1%）」や「業務を効率化できた（医師 2位：50.8%、看護師 1位：59.8%）」と実感。

AIの業務利用経験のある医師（100名）と看護師（43名）に、AIの業務利用による変化として何を実感しているかを尋ねました。医師・看護師で上位は共通しており、ともに半数以上が「大量の医学的なデータや文献を活用できた（医師 1位：54.1%、看護師 2位：55.1%）」や「業務を効率化できた（医師 2位：50.8%、看護師 1位：59.8%）」と回答しました。AIが得意とされるデータ活用や、人材不足や長時間労働の緩和につながる業務効率化への実感が高いことがうかがえます。

【AIの業務利用で実感した変化（医師：そう思う計）】

AIの業務利用経験がある医師／それぞれ単数回答／n=100／上位10項目のみ掲載

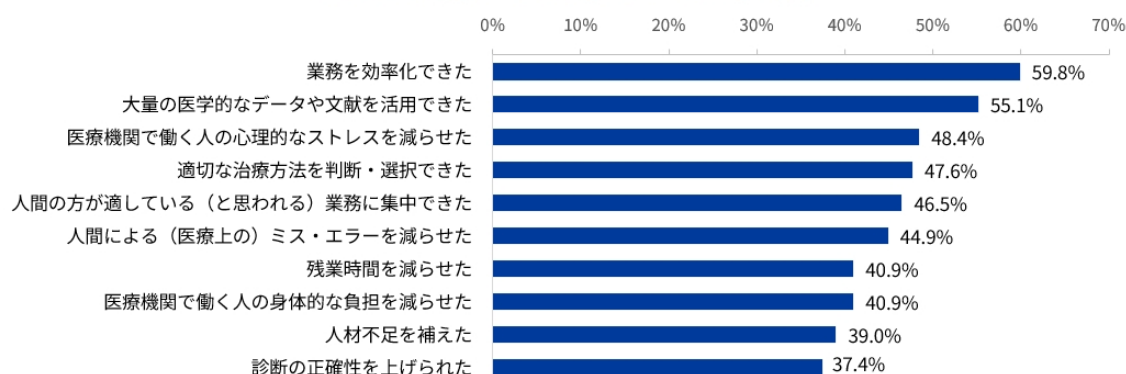
※「そう思う計」…「そう思う」「ややそう思う」の合算



【AIの業務利用で実感した変化（看護師：そう思う計）】

AIの業務利用経験がある看護師／それぞれ単数回答／n=43／上位10項目のみ掲載

※「そう思う計」…「そう思う」「ややそう思う」の合算



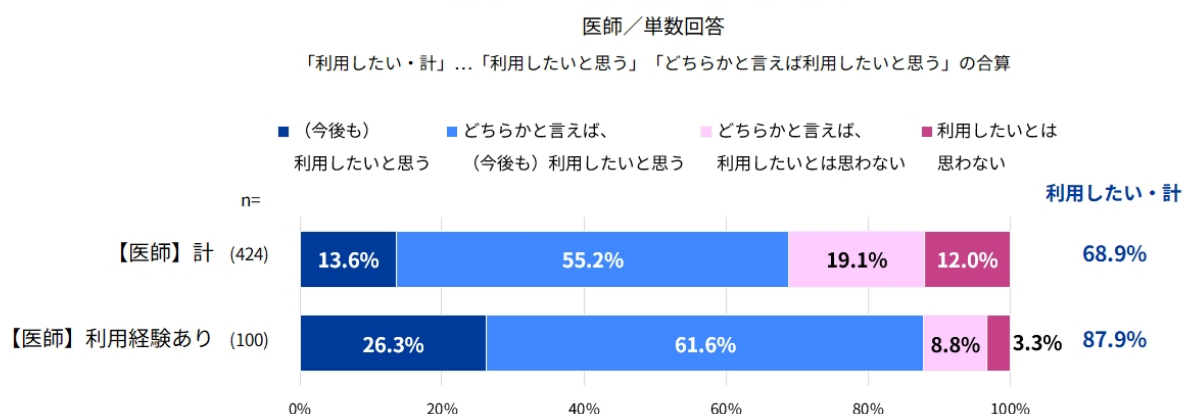
<AI の業務利用意向>

3. 「AI の業務利用意向」

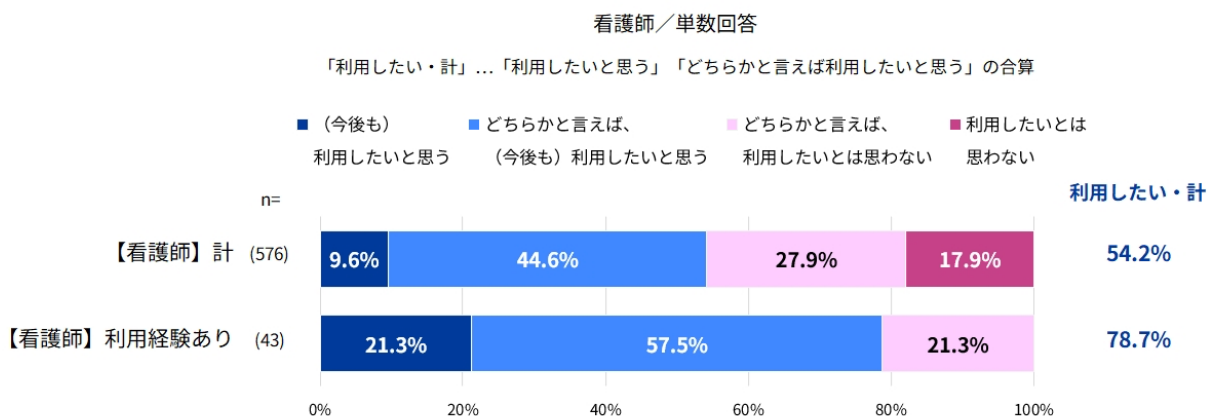
- 医師の約 7 割 (68.9%)、看護師の 5 割以上 (54.2%) が AI を業務に利用したいと回答し、期待感の高さがうかがえる。特に AI 利用経験のある人の方が利用意向が高く、医療従事者が「AI の業務利用を経験すること」が、医療現場でのさらなる AI の広がりにつながる可能性。

自身の業務において AI を利用したいか尋ねたところ、「利用したい」が医師では約 7 割の 68.9% (利用したいと思う 13.6%、どちらかと言えば利用したいと思う 55.2%の合計)、看護師では 5 割以上の 54.2% (利用したいと思う 9.6%、どちらかと言えば利用したいと思う 44.6%の合計) となり、AI の業務利用に対する期待感の高さがうかがえる結果となりました。また AI 利用経験のある人の方が利用意向が高く (医師：87.9%、看護師：78.7%)、医療現場でのさらなる AI の広がりにあたっては、医療従事者が「AI の業務利用を経験すること」が有用だと考えられます。

【今後のAI業務利用意向（医師）】



【今後のAI業務利用意向（看護師）】



4. 「AI 利用によって削減したい労働時間」

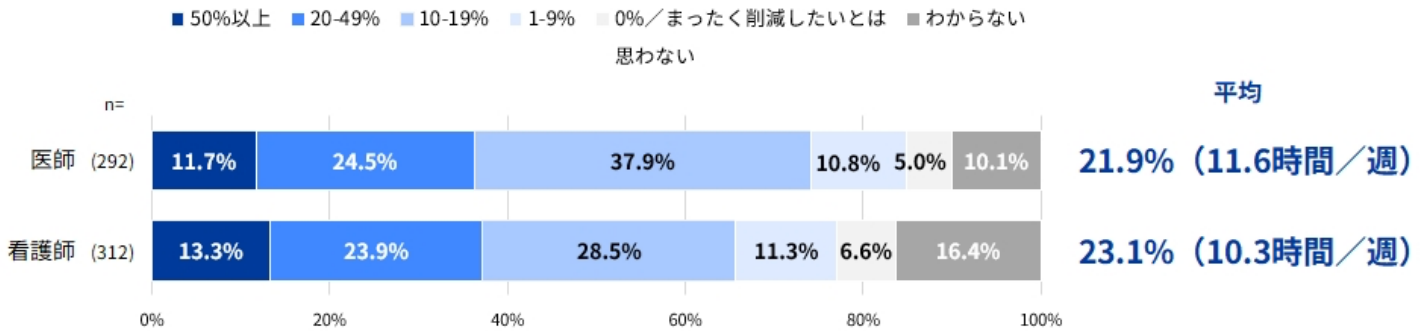
- 医師では平均で 21.9% (11.6 時間/週)、看護師では平均で 23.1% (10.3 時間/週) の労働時間を、AI 利用によって削減したい。

自身の業務において AI を利用したいと思う医師 (292 名) と看護師 (312 名) に、AI 利用によって週あたりの労働時間をどのくらい削減したいか尋ねたところ、医師では平均 21.9% (1 週間あたり平均 11.6 時間^{※4})、看護師では平均 23.1% (1 週間あたり平均 10.3 時間^{※4}) となり、AI の業務利用による業務効率化の意向がうかがえる結果となりました。

※4：別途聴取していた「1 週間あたりの大よその労働時間 (残業時間含む/日勤・夜勤なども合わせた平均的な 1 週間の労働時間を数値にて回答)」を用いて算出。なお、1 週間の労働時間の平均は、医師 48.9 時間、看護師 41.9 時間であった。

【AIの業務利用で削減したい労働時間の割合】

AI利用意向のある医師と看護師／単数回答



5. 「今後 AI を利用したいと思う業務」

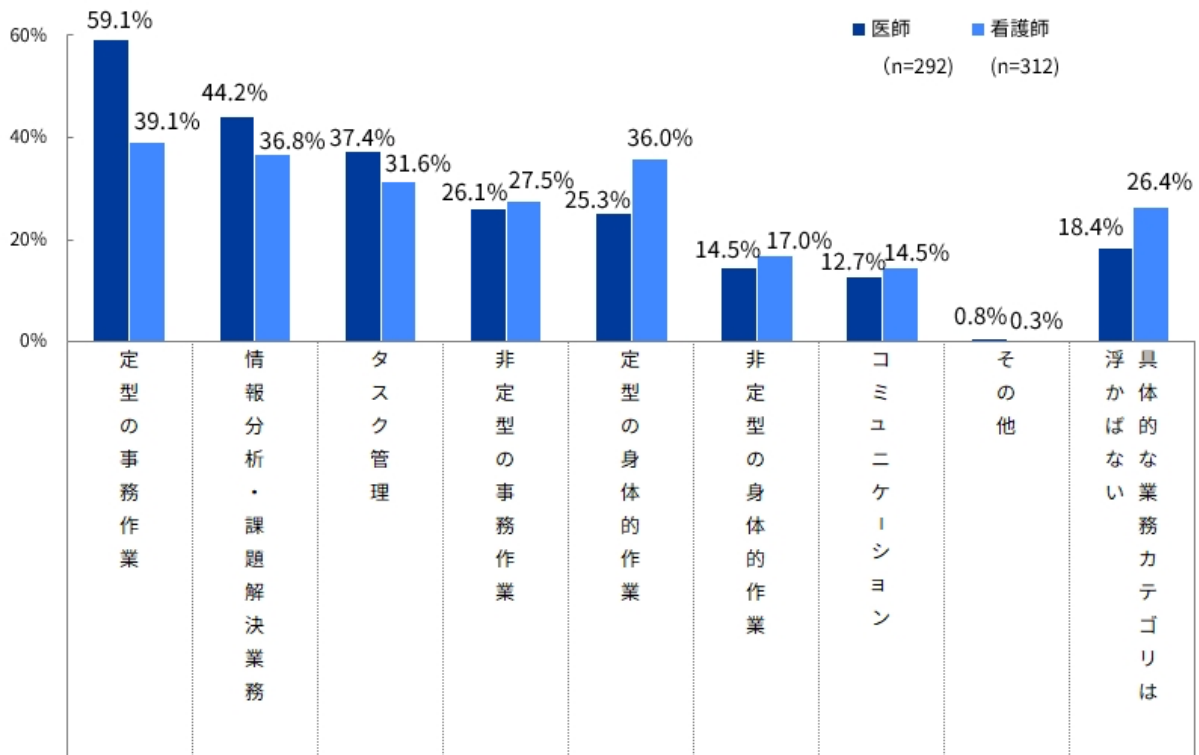
- 医師の約 6 割 (59.1%) が「定型の事務作業」に、44.2%が「情報分析・課題解決業務」に AI を活用したいと回答し、業務効率化とともに、医療の「質」の向上につなげたい意向あり。
- 看護師の 39.1%が「定型の事務作業」、36.8%が「情報分析・課題解決業務」に AI の活用意向があり、医師と同傾向。

自身の業務において AI を利用したいと思う医師 (292 名) と看護師 (312 名) に、今後 AI を利用したいと思う業務を尋ねたところ、医師の約 6 割 (59.1%) が「診療記録の作成」などの「定型の事務作業」に AI を活用したいと回答し、ここでも業務効率化への意向がうかがえます。一方で、「患者の病状の評価と診断」や「検査結果の解析と診断の立案」などの「情報分析・課題解決業務」についても 44.2%の医師が利用意向を持っており、AI を医療の「質」の向上につなげたい意向も見取れます。

看護師の AI を利用したい業務として最も多かったのが「定型の事務作業」(「患者の受付業務」や「記録作業」など) で 39.1%、次いで「情報分析・課題解決業務」(「患者の病状のアセスメント」や「ヒューマンエラーの防止」など) で 36.8%となっており、医師と同様の傾向が示されました。

【今後AIを利用したい業務カテゴリ】

AI利用意向のある医師と看護師／複数回答／降順ソート (医師)



※回答の参考情報として、下記の業務一覧を提示

業務カテゴリ	医師の具体的な業務の例	看護師の具体的な業務の例
定型の事務作業	診療記録の作成	患者の受付業務、記録作業
定型の身体的作業	診察、処方箋の作成	血圧測定、脈拍測定、体温測定
非定型の事務作業	電話による相談対応、医学論文など文献の研究と要約	緊急時の連絡先の確認、患者の既往歴聴取（補助）
非定型の身体的作業	急患の対応、手術の実施、処置や手当（創傷処置、抜糸など）	傷のケアと処置、患者の見守り（見まわり）
コミュニケーション	患者への診断結果の説明、他のスタッフとの協力と連絡、患者やその家族へのアドバイス	患者への医療情報の提供、患者・家族へのサポート
タスク管理	手術スケジュールの管理、検査結果の追跡	看護計画の作成と実行、複数患者のケアの調整
情報分析・課題解決業務	患者の病状の評価と診断、検査結果の解析と診断の立案	患者の病状のアセスメント、カンファレンスでの対策検討、ヒューマンエラーの防止

- 「今後 AI が利用できたらいいと思うこと」（自由回答）には、医師では「画像診断による見落としや確認のダブルチェック」など、看護師では「症状や検査データ、バイタルサインを入力すると、疑わしい病名と処置方法が提示される」など、医療技術の向上に資する AI 活用を希望する声が集まる。

さらに、医師や看護師の業務において「こんなことに AI を利用できたらいいな」と思うものを自由記述で尋ねると、医師では「画像診断による見落としや確認のダブルチェック」「過去のカルテや他の医療機関の情報から、経過を分析」などが挙がりました。看護師では「症状や検査データ、バイタルサインを入力すると、疑わしい病名と処置方法が提示される」などの声が見られました。医師、看護師ともに、業務効率化に留まらず診断精度や医療技術の向上に寄与するような AI 活用を希望する声も集まりました。

【医療の業務で「こんなことに AI を利用できたらいいな」と思うこと（一部回答抜粋）】

全体／自由回答／n=1,000

医師 (整形外科／48 歳／男性)	画像診断は AI の最も得意とするところだと思う。 自分自身は苦手意識を持ってはいないが、 見落としや確認の意味、ダブルチェック目的でぜひ導入したい
医師 (麻酔科／47 歳／男性)	手術スケジューリングにおいて、 どの部屋でどの手術を割り当てれば最短の時間で全て終了できるか、といった提案
医師 (精神科／57 歳／男性)	過去の紙カルテや電子カルテのデータ、他の医療機関の情報から、経過を分析
看護師 (外科／37 歳／女性)	手術の練習やシミュレーション。患者の術中の体位固定をシミュレーションしたい
看護師 (内科／43 歳／女性)	症状や検査データ、バイタルサインを入力したら 疑わしい病名とそれに対する処置を示してほしい
看護師 (緊急外来／37 歳／女性)	病棟や院内のオリエンテーション、入院説明。一括で AI を用いて説明し、 細かい質問や個別性のある項目のみ看護師から追加出来れば良いと思う

■ 「AIの業務利用に関する実態・意識調査【医療職（医師・看護師）編】」概要

- ・調査主体：Indeed Japan 株式会社
- ・調査対象：①「医師」として勤務している24歳～59歳の正社員の男女計424名
※歯科医、獣医および研究・開発のみを行っている医師を除く
- ②「看護師」として勤務している20歳～59歳の正社員の男女計576名
※医療機関以外（保育園・保健所など）の勤務者を除く
- ・割付方法：「医師（24-39歳）」「医師（40-59歳）」「看護師（20-39歳）」「看護師（40-59歳）」の4セル
※一部不足したセルは他セルから補填して回収
- ・補正：下記の参照データに基づき、割付4セルの年代構成比で補正
【医師】「令和6年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」※雇用形態で正規以外も含まれる
【看護師】「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）」※雇用形態で正規以外も含まれる
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査期間：2024年8月7日～8月14日
- ・補足：本調査の一部設問の設計・作成（医療職の具体業務の一覧化）にあたっては、OpenAI API（ChatGPT）を利用。

構成比（%）は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や、小数第1位までの計算とは数値が異なる場合があります。

Indeed（インディード）について

Indeed は、最も多くの方が仕事を見つけている世界 No.1 求人サイト*です。現在 60 カ国以上、28 の言語でサービスを展開し、求職者は何百万もの求人情報を検索することができます。約 350 万の企業が Indeed を利用して従業員を見つけ、採用しています。また、月間 3.5 億人以上のユニークビジター**が、Indeed で求人検索や履歴書の登録、企業の情報検索を行っています。詳細は <https://jp.indeed.com> をご覧ください。

*出典：Comscore 2024 年 3 月総訪問数

**出典：Indeed 社内データ 2023 年 10 月～2024 年 3 月